

太陽エネルギーシステムフィールドテスト事業④

●本事業の達成目標

- ・太陽光:総設備容量64,000kW(原油換算15,700kL)
- ・太陽熱:総集熱面積20,520㎡(原油換算1,164kL)

●既存事業を統合するメリット

- ・事業運営の効率化
- ・太陽光発電と太陽熱利用の枠を超えた、高いイノベーション効果が期待されるものを積極的かつ柔軟に導入可能。

太陽光発電新技術等フィールドテスト事業(H15fy~H18fy) } 統合により、「太陽エネルギーシステムフィールドテスト事業」へ
 太陽熱高度利用システムフィールドテスト事業(H18fy) }

●期待される効果

- ・国の導入目標達成へ貢献
- ・設置・運転・トラブル等の各種データを分析・公表
- ・システムの有効性を実証
- ・システム機器の標準化・設置工事の最適化

太陽エネルギーシステムの普及促進
 システム低コスト化による市場活性化

●最適化・標準化への取り組み

[最適化]

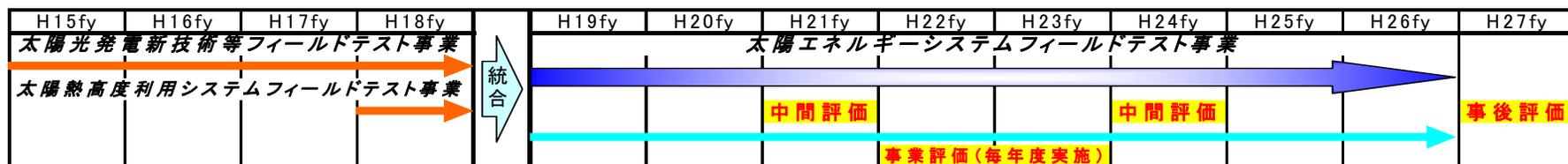
- ・経済的、最適なシステム効率を実現する設置・施工方法
- ・建物用途、設置分野毎の最適システム指針の作成

[標準化]

- ・システム機器(インバータ、架台、計測機器等)
- ・架台・建材化等、各種設置場所対応設置技術

●採択、評価の体制

- ・採択の際に外部有識者による「採択審査委員会」を組織(太陽光、太陽熱)。
- ・NEDO「事業評価指針」に基づき、NEDO内部による「事業評価委員会」を組織し、事業評価を毎年度実施。なお、太陽光については、平成18年度に「FT事業戦略策定に係る調査」の中で委員会を組織し、これまでの事業の検証及び今後の事業戦略について議論・評価する予定。
- ・更に、外部有識者による「評価委員会」を組織して、平成21年度及び24年度に中間評価を実施し、平成27年度に事後評価を実施予定。



太陽エネルギーシステムフィールドテスト事業⑥

～昨年度SABC評価への対応～

○太陽光発電

(評価内容)

- ・太陽光発電の普及に向けて、公共施設や集合住宅への導入を促進するために重要な施策であり、着実に実施すべきである。
- ・普及促進効果がより期待できる分野に重点化したり、低コスト化を図るための標準化の推進に配慮するなど、投資効果を高めるよう留意すべきである。
- ・太陽光発電の普及のための施策は長期にわたっており、事業のあり方について、引き続き市場の動向を踏まえた検討が求められる。

(対応状況)

- ・高い普及促進効果が期待される学校施設等への重点的導入に配慮するとともに、設置・施工方法の標準化を図るために設置ガイドライン策定に向けた取組みを行っている。
- ・結晶シリコン系太陽電池の次世代型として開発されてきた化合物系太陽電池や薄膜タンデム型太陽電池の商用化が近いことから、これらを積極的に導入し実証することとしたい。

○太陽熱利用

(評価内容)

- ・太陽熱利用の推進は重要な施策ではあるが、新規性、普及見込みなどを勘案して公募及び採択を行い、効果的、効率的に実施すべきである。
- ・事業の実施にあたっては、適正な実証規模を設定し、地域、対象施設等を厳選する必要がある。

(対応状況)

- ・冷房や床暖房等の給湯以外の利用用途を可能とするシステムを優先的に採択するよう工夫している。
- ・普及見込みを勘案し、今後、太陽熱利用の普及が見込まれる老人ホーム等の福祉施設や温泉等の観光施設、学校施設に積極的に導入している。
- ・太陽熱利用の業界等からヒアリングを行い、需要が見込まれる規模（有効集熱面積：20m²以上）を設定し、実施している。